



## 目次

---

- 1. 改訂情報
- 2. はじめに
  - 2.1. iAG へ移行するもの
  - 2.2. 移行ツールについて
    - 2.2.1. 検証済み環境
- 3. 前提条件
  - 3.1. バージョン
  - 3.2. データベース
  - 3.3. 文字コード
  - 3.4. オペレーティングシステム
  - 3.5. タイムゾーン
  - 3.6. 移行ツールで移行を実施できる状態について
- 4. 移行
  - 4.1. 事前作業
  - 4.2. 移行手順
    - 4.2.1. IM-社内便 からDMLのエクスポート
      - 4.2.1.1. 移行ツール のインストール
      - 4.2.1.2. DMLのエクスポート
    - 4.2.2. iAG のインストール
      - 4.2.2.1. 設定ファイルの移行
      - 4.2.2.2. WARのデプロイとテナント環境セットアップ
    - 4.2.3. iAG へのデータ登録
    - 4.2.4. iAG へのStorageの移行
    - 4.2.5. ジョブネットの実行
- 5. 制限事項

## 改訂情報

---

変更年月日	変更内容
2015-08-01	初版
2021-04-01	第2版 <ul style="list-style-type: none"><li>▪ 「はじめに」の「検証済み環境」を更新しました。</li><li>▪ 「IM-社内便 からDMLのエクスポート」の設定ファイルの設定内容について、移行先バージョンによる設定内容についての記述を追加しました。</li></ul>
2022-12-01	第3版 <ul style="list-style-type: none"><li>▪ 「iAG へのデータ登録」の SQL クライアントの利用上の注意点を追加しました。</li></ul>

---

## はじめに

本書では IM-社内便 から intra-mart Accel GroupMail (以下 iAG )への移行手順について説明します。

### 注意

本ドキュメントは IM-社内便 Ver.7.0 または Ver.7.2 から iAG Ver.8.0.0 以降へのアップデートを対象としています。

## iAG へ移行するもの

移行の対象は以下の通りです。

### ■ IM-社内便 の データベース

以下の手順で IM-社内便 のデータを変換して iAG のテーブルに登録します。

- ① 移行ツール を実行して移行元 IM-社内便 環境からDML文をエクスポートします。
- ② iAG 環境でDML文を実行します。

### ■ ストレージ

Storage Serviceにある *groupmail* フォルダ以下の構造は変更されていません。  
移行手順で示す場所に、手作業で移動してください。

### ■ 各種設定ファイル

IM-社内便 で使用していた設定を im-juggling 上で iAG の設定ファイルに転記します。  
移行手順中に説明がないものは、[intra-mart Accel GroupMail セットアップガイド](#)、[intra-mart Accel GroupMail 管理者操作ガイド](#)に従って設定してください。

## 移行ツールについて

移行ツール は単体で実行するJavaアプリケーションです。

このツールは IM-社内便 の データベース に直接接続し、iAG のテーブルに対して実行可能なDMLをテキストファイルに出力します。出力されたDMLをテナント環境セットアップが完了した データベース に対して直接実行することでデータベースの移行を行うことができます。

また、このツールは IM-社内便 のテーブル以外には関与しません。IM共通マスタなどその他必要になる基盤のデータについては別途移行されていることが前提になります。

### 注意

移行ツール の生成するDMLは iAG のテナント環境セットアップが完了した直後（テーブルがあり、データが作成されていない）の状態であることが前提になっています。iAG の運用を開始してしまっている場合、この移行ツールのDMLを使用して移行を行うとデータの不整合が発生する可能性があります。

## 検証済み環境

移行ツール はJavaで動作します。

弊社動作検証済みの環境を以下に示します。

条件項目	対応規格
オペレーティングシステム	Windows Server 2019 (64bit)
データベース	IM-社内便 : Oracle Database 12c Release 2 iAG : Oracle Database 19c
Javaランタイム	Open JDK 11.0.2
JDBCドライバ	Oracle Database 19c (19.9) JDBC Driver

## 前提条件

バージョンアップ時には、各前提条件を満たすように注意してください。

### バージョン

IM-社内便 Ver.7.0 または Ver.7.2 の標準ベースの状態を、iAGへ移行します。

#### ！ 注意

標準モジュールにカスタマイズを行っている場合、移行に失敗する可能性があります。  
カスタマイズ内容を精査の上、以下を検討してください。

- 一旦標準に戻し、iAG上で再度カスタマイズする
- 移行ツールをカスタマイズする

上記検討には、コンサルティングサービスのご利用をお奨めします。

### データベース

IM-社内便 の データベース 製品はOracleが前提となっているため、iAG へ移行する場合の データベース 製品もOracleが前提となります。

#### i コラム

以下の項目に対して、iAG の最大値を超過する値を IM-社内便 で設定している場合、移行前に変更することをお奨めします。

- 簡易宛先選択
  - ・ IM-社内便 :3桁
  - ・ iAG :2桁
- 署名
  - ・ IM-社内便 :255文字
  - ・ iAG :250文字

変更を行わずに移行を行った場合、iAG で個人設定画面を表示するとバリデーションエラーとなります。

#### ！ 注意

iAG の データベース 製品がOracle以外の場合は、以下を検討してください。

- 移行ツールをカスタマイズする

上記検討には、コンサルティングサービスのご利用をお奨めします。

### 文字コード

iAG の文字コードは **UTF-8** のみです。

- IM-社内便の環境（アプリケーション、データベース等）がUTF-8以外の場合、事前に文字コードの変換作業が必要となります。
- 移行ツールは、文字コードの変換は行いません。別途、文字コードの変更を行う必要があります。

#### i コラム

例として、文字コードの変更が必要な項目の観点を列挙します（以下が全てではありません）。

- Storage Service配下のファイル文字コード変更（「[オペレーティングシステム](#)」参照）
- データベースの文字コード設定（ご利用のデータベース製品が推奨する変換方法を参照）

### オペレーティングシステム

- オペレーティングシステムの変更は可能ですが、文字コードが変わる場合、Storage Serviceからの移行に影響する場合があります。また、IM-社内便のインストール時の文字コードがUTF-8以外の場合も、変換が必要な場合があります。
- 設定ファイル等の場合、文字コードが変わると入出力が正しく行えないため、基本的にUTF-8への変換が必要となります。

### タイムゾーン

- 移行前システムと移行後システムのJVMタイムゾーンは同一である必要があります。
- 今まで文字型で保持していた日時項目は、システムタイムゾーンを使用して日時型に変換します。

### 移行ツールで移行を実施できる状態について

- 移行ツールはIM-社内便のテーブルに直接接続する必要があります。  
intra-mart Web Platform が動作している必要はありませんが、データベースが起動しており、アクセスできる状態になっている必要があります。
- 移行ツールはIM-社内便のテーブル以外には関与しません。このため、IM共通マスタなどその他必要になる基盤のデータについては別途移行されていることが前提になります。
- 移行ツールはiAGのテーブルに対して直接実行可能なDMLを生成します。  
このDMLは既に運用を開始するなどしてiAGのテーブルにデータが存在する場合、不整合を起こすデータを登録する可能性があります。  
iAGのテナント環境セットアップ直後に移行を実施してください。

## 移行

### 事前作業

- IM-社内便環境のバックアップ(データベース、storage、初期値ファイル)を行ってください。
- IM-社内便 Ver.7.0 以前の場合、IM-社内便 Ver.7.0 または Ver.7.2 へのバージョンアップを行ってください。

### 移行手順

#### IM-社内便 からDMLのエクスポート

##### 移行ツール のインストール

- ダウンロードした圧縮ファイル( iAG\_migration.zip)を、任意のフォルダに展開します。  
windowsの場合は任意のZIP解凍ツールで解凍してください。  
RedHatまたはSolarisの場合はunzipコマンドで解凍することが可能です。



#### コラム

本移行ツールは、移行元の環境へインストールしてご利用ください。

<%展開したフォルダ%>

```

|- conf
| |- logback.xml
| |- settings.xml
|- migration_lib
| |- logback-classic-1.1.3.jar
| |- logback-core-1.1.3.jar
| |- migration.jar
| |- slf4j-api-1.7.12.jar
|- migration.bat
|- migration.sh

```

- Oracleの JDBCドライバ を入手します。



#### コラム

次のURLより JDBCドライバ をダウンロードできます。  
<https://www.oracle.com>

- 入手した JDBCドライバ を、移行ツール を展開したフォルダ配下<%展開したフォルダ%>/migration\_libにコピーします。
- 移行ツールの設定ファイルを編集します。

設定場所 <%展開したフォルダ%>/conf/setting.xml

driver.url	移行元のデータベース接続URL
driver.user	データベース接続ユーザ名
driver.password	データベース接続パスワード

```

<!DOCTYPE properties SYSTEM "http://java.sun.com/dtd/properties.dtd">
<properties>
  <entry key="driver.url">jdbc:oracle:thin:@localhost:1521:orcl</entry>
  <entry key="driver.user">username</entry>
  <entry key="driver.password">password</entry>
</properties>

```

上記のパラメータで実行するとデフォルト動作として Accel GroupMail 2020 Summer (8.0.9) 以降を対象にした動作になります。  
移行先が Accel GroupMail 2020 Summer より前 ( 2019 Summer 8.0.8 以前) の場合は下記のようにtarget.schema\_version を指定します。

```

<!DOCTYPE properties SYSTEM "http://java.sun.com/dtd/properties.dtd">
<properties>
  <entry key="driver.url">jdbc:oracle:thin:@localhost:1521:orcl</entry>
  <entry key="driver.user">username</entry>
  <entry key="driver.password">password</entry>
  <!-- 移行先が Accel GroupMail 2019 Summer (8.0.8) 以前 -->
  <entry key="target.schema_version">initial-schema</entry>
</properties>

```

**i** コラム

ログの出力先を変更する場合は、移行ツールのログ設定ファイルを編集してください。  
設定場所 <%展開したフォルダ%/conf/logback.xml

```
<configuration>
  <appender name="STDOUT" class="ch.qos.logback.core.ConsoleAppender">
    <encoder>
      <pattern>%nopex%msg%n
    </pattern>
    </encoder>
  </appender>

  <appender name="ERROR" class="ch.qos.logback.core.FileAppender">
    <file>./log/migration-error.log</file>
    <append>>false</append>
    <encoder>
      <pattern>%d{yyyy/MM/dd HH:mm:ss} %-5level %msg%n
    </pattern>
    </encoder>
  </appender>

  <appender name="WARN" class="ch.qos.logback.core.FileAppender">
    <file>./log/migration-warn.log</file>
    <append>>false</append>
    <encoder>
      <pattern>%msg%n
    </pattern>
    </encoder>
  </appender>

  <logger name="warn">
    <appender-ref ref="WARN" />
  </logger>

  <logger name="console">
    <appender-ref ref="STDOUT" />
  </logger>

  <logger name="jp.co.ucm.im.groupmail.migration">
    <appender-ref ref="STDOUT" />
    <appender-ref ref="ERROR" />
  </logger>

  <root level="info"/>
</configuration>
```

## DMLのエクスポート

## 1. 移行ツール を実行します。

- 移行元がWindowsの場合、以下のコマンドを実行します。

```
migration.bat
```

- 移行元がLinuxの場合、以下のコマンドを実行します。

```
migration.sh
```

## 2. コマンドの実行が完了すると、カレントディレクトリに「migration.sql」がエクスポートされます。



```

-- IM社内便データ移行

-- gmm_folder
insert into gmm_folder (folder_cd, folder_name, sort_key, user_cd, create_user_cd, create_user_name, create_date, record_user_cd, record_user_name,
record_date) values ( . . . );

-- gmm_folder_inclusion
insert into gmm_folder_inclusion (folder_cd, parent_folder_cd, folder_depth, create_user_cd, create_date, record_user_cd, record_date) values ( . . . );

-- gmm_user_top_folder
insert into gmm_user_top_folder (user_cd, folder_cd, category, create_user_cd, create_date, record_user_cd, record_date) values ( . . . );

-- gmm_user_config
insert into gmm_user_config (user_cd, disp_line, carbon_disp, srch_type, srch_user_count, srch_group_count, self_mail_flg, use_sign, re_use_sign,
fw_use_sign, userssign, re_type, re_indent_mark, fw_type, fw_indent_mark, use_mail_preview, body_text_type, attach_auto_upload, mail_disp_type,
notify_out_of_office, out_of_office_date_from, out_of_office_date_to, out_of_office_notice_title, out_of_office_notice_message, create_user_cd, create_date,
record_user_cd, record_date) values ( . . . );

-- gmm_user_condition
insert into gmm_user_condition (user_cd, condition_cd, condition_1, condition_2, condition_3, folder_cd, sort_key, create_user_cd, create_date,
record_user_cd, record_date) values ( . . . );

-- gmt_user_data
insert into gmt_user_data (user_cd, data_size, create_user_cd, create_date, record_user_cd, record_date) values ( . . . );

-- gmt_mail_data
insert into gmt_mail_data (mail_id, title, contents, contents_html, priority, data_size, total_size, body_text_type, notes, reference_type, reference_mail_id,
create_user_cd, create_user_name, create_date, record_user_cd, record_user_name, record_date) values ( . . . );

-- gmt_folder_mail
insert into gmt_folder_mail (user_cd, mail_id, mail_sub_id, folder_cd, create_user_cd, create_date, record_user_cd, record_date) values ( . . . );

-- gmt_attachment
insert into gmt_attachment (file_cd, physical_file_name, logical_file_name, data_size, notes, create_user_cd, create_user_name, create_date,
record_user_cd, record_user_name, record_date) values ( . . . );

-- gmt_file_reference
insert into gmt_file_reference (mail_id, file_cd, create_user_cd, create_date, record_user_cd, record_date) values ( . . . );

-- gmt_mail_notice_group
insert into gmt_mail_notice_group (mail_id, address_type, parent_group_cd, group_cd, group_name, send_type, record_user_cd, record_date ) values
( . . . );

-- gmt_mail_notice
insert into gmt_mail_notice (user_cd, user_name, mail_id, mail_sub_id, read_flg, send_type, rec_send_flg, address_type, reply_flg, forward_flg,
rec_send_date, create_user_cd, create_date, record_user_cd, record_date) values ( . . . );

```

## iAG のインストール

### 設定ファイルの移行

設定ファイルの移行は、im-Juggling で WARファイルを作成する際に行います。  
IM-社内便 の設定ファイルを元に、以下の対応表にしたがって設定ファイルを転記してください。

#### iAGの設定ファイル

IM-社内便 (pages/product/src/groupmail/groupmail.ini )	GroupMail (conf/iag-system-config.xml )
GM_FLD_TREE_NUM_MAX	廃止
GM_GRP_TREE_NUM_MAX	廃止
GM_MAIL_SEARCH_TYPE	mail-search-mode 値 : 1 PREFIX (前方一致) 値 : 2 SUBSTRING (部分一致)
GM_USER_SEARCH_TYPE	廃止
GM_ATTACHED_FILE_SAVE_TYPE	attachment-file-naming 値 : id :仮想ファイル名 (ID) で保存 値 : 空欄 :実ファイル名 (NAME) で保存
GM_ATTACHED_FILE_SAVE_SAME_NAME	廃止
GM_MAIL_SAVE_LIMIT	quota-max/months-for-mail
GM_MAIL_SAVE_LIMIT	quota-max/months-for-files
GM_TEMP_FILE_SAVE_LIMIT	廃止
GM_USER_MAX_BYTE	quota-max/megabytes-per-user

GM_PAGING_BEFORE_NUMBER_OF_LINE	廃止
GM_PAGING_AFTER_NUMBER_OF_LINE	廃止
GM_MAX_USER_FOLDER_COND_LINE	filters-per-user
GM_DEFAULT_MAIL_LIST_LINE	defaults/preference/messages-per-page
GM_MANAGER_LIST_LINE	length-per-page/lines-in-admin

<b>IM-社内便</b> (pages/product/src/groupmail/groupmail.ini )	<b>GroupMail</b> (conf/iag-portlet-config.xml )
GM_PTL_MAX_LINE	mails-per-page

**IM-社内便設定ファイルの例** (pages/product/src/groupmail/groupmail.ini )

```
#####
# グループメール
#####

## システム値
# フォルダー一覧のTOPフォルダ表示件数の上限値
GM_FLD_TREE_NUM_MAX=20

# グループ（組織、パブリックグループ）用ツリーのTOPフォルダ表示件数の上限値
GM_GRP_TREE_NUM_MAX=10

# メール の文字列検索方法
# 「1」:前方一致(デフォルト)
# 「2」:部分一致
GM_MAIL_SEARCH_TYPE=1

# ユーザ の文字列検索方法
# 「1」:前方一致(デフォルト)
# 「2」:部分一致
GM_USER_SEARCH_TYPE=1

# 添付ファイルのサーバへの保存タイプ
# 仮想ファイル名 (ID) で保存する場合 : id
# ファイルサーバに実ファイル名で保存する場合 : 空欄
GM_ATTACHED_FILE_SAVE_TYPE=id

# ファイル添付機能で同名ファイルで保存可能/不可能の設定(ON=可能,OFF=不可能)
GM_ATTACHED_FILE_SAVE_SAME_NAME=OFF

# メール の有効保存期間(0=無期限, 1以上=保存期間(月単位))
GM_MAIL_SAVE_LIMIT=12

# 添付ファイルの有効保存期間(0=無期限, 1以上=保存期間(月単位))
GM_FILE_SAVE_LIMIT=6

# 添付一時ファイルの有効保存期間(1以上=保存期間(日単位))
GM_TEMP_FILE_SAVE_LIMIT=2

# ポータル画面の最大行数
GM_PTL_MAX_LINE=5

# 利用者の最大使用データ量(MB) (*小数点以下無効)
GM_USER_MAX_BYTE=10

# メール一覧のページング (前) 表示数
GM_PAGING_BEFORE_NUMBER_OF_LINE=5

# メール一覧のページング (次) 表示数
GM_PAGING_AFTER_NUMBER_OF_LINE=5

# 利用者が設定できる振り分け条件最大行(最大99行まで)
GM_MAX_USER_FOLDER_COND_LINE=5

# メール機能一覧表示件数
GM_DEFAULT_MAIL_LIST_LINE=15

# 管理ユーザ機能一覧表示件数
GM_MANAGER_LIST_LINE=15

##[End of File]
```

**GroupMail設定ファイルの例** (conf/iag-system-config.xml )

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<tns:iag-system-config
  xmlns:tns="http://www.ucm.co.jp/products/groupmail-configurations"
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="http://www.ucm.co.jp/products/groupmail-configurations ../schema/iag-system-config.xsd ">
  <tns:mail-search-mode>PREFIX</tns:mail-search-mode>
  <tns:attachment-file-naming>ID</tns:attachment-file-naming>
  <tns:enable-out-of-office-setting>true</tns:enable-out-of-office-setting>
  <tns:characters-per-message>4000</tns:characters-per-message>
  <tns:filters-per-user>10</tns:filters-per-user>
  <tns:attachments-per-message>20</tns:attachments-per-message>
  <tns:length-per-page>
    <tns:users-in-mail-status>10</tns:users-in-mail-status>
    <tns:lines-in-admin>10</tns:lines-in-admin>
  </tns:length-per-page>
  <tns:quota-max>
    <tns:months-for-mail>12</tns:months-for-mail>
    <tns:months-for-files>6</tns:months-for-files>
    <tns:megabytes-per-user>200</tns:megabytes-per-user>
  </tns:quota-max>
  <tns:defaults>
    <tns:quota>
      <tns:months-for-mail>2</tns:months-for-mail>
      <tns:megabytes-per-user>20</tns:megabytes-per-user>
    </tns:quota>
    <tns:preference>
      <tns:messages-per-page>15</tns:messages-per-page>
      <tns:display-carbon-copy>>false</tns:display-carbon-copy>
      <tns:message-content-type>HTML</tns:message-content-type>
      <tns:recipients-order-in-recent-list>USAGE</tns:recipients-order-in-recent-list>
      <tns:users-in-recent-list>10</tns:users-in-recent-list>
      <tns:groups-in-recent-list>5</tns:groups-in-recent-list>
      <tns:cc-to-me>>false</tns:cc-to-me>
      <tns:add-signature>>false</tns:add-signature>
      <tns:signature></tns:signature>
      <tns:add-signature-on-reply>>false</tns:add-signature-on-reply>
      <tns:add-signature-on-forward>>false</tns:add-signature-on-forward>
      <tns:quotation-on-reply>NO_QUOTE</tns:quotation-on-reply>
      <tns:indent-mark-on-reply>></tns:indent-mark-on-reply>
      <tns:quotation-on-forward>NO_QUOTE</tns:quotation-on-forward>
      <tns:indent-mark-on-forward>></tns:indent-mark-on-forward>
      <tns:show-preview>>true</tns:show-preview>
      <tns:notify-out-of-office>>false</tns:notify-out-of-office>
      <tns:out-of-office-title></tns:out-of-office-title>
      <tns:out-of-office-message></tns:out-of-office-message>
      <tns:enable-auto-upload>>true</tns:enable-auto-upload>
      <tns:popup-message-view>>true</tns:popup-message-view>
    </tns:preference>
    <tns:filter>
      <tns:condition1>TITLE</tns:condition1>
    </tns:filter>
  </tns:defaults>
</tns:iag-system-config>
```

GroupMail設定ファイルの例 (conf/iag-portlet-config.xml )

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<tns:iag-portlet-config xmlns:tns="http://www.ucm.co.jp/products/groupmail-configurations-portlet" xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance" xsi:schemaLocation="http://www.ucm.co.jp/products/groupmail-configurations-portlet ../schema/iag-portlet-config.xsd ">
  <tns:mails-per-page>10</tns:mails-per-page>
</tns:iag-portlet-config>
```

#### iAPの設定ファイル

##### IM-社内便

(conf/mail/mailSendListener.xml )

```
listener/listener- jp.co.intra_mart.product.groupmail.listener.GroupMailSendContinueListener
class                jp.co.intra_mart.product.groupmail.listener.GroupMailSendOnlyListener
```

##### GroupMail

(conf/javamail-config/javamail-config.xml )

```
listener/listener- jp.co.ucm.im.groupmail.listeners.GroupM
class                jp.co.ucm.im.groupmail.listeners.GroupM
```

IM-社内便設定ファイルの例 (conf/mail/mailSendListener.xml )

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<listener-config>
  <listener>
    <listener-class>jp.co.intra_mart.foundation.mail.javamail.listener.impl.HalfKanaTransrateListener</listener-class>
    <listener-class>jp.co.intra_mart.product.groupmail.listener.GroupMailSendContinueListener</listener-class>
  </listener>
</listener-config>
```

GroupMail設定ファイルの例 (conf/javamail-config/javamail-config.xml )

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<javamail-config xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xmlns="http://intra-mart.co.jp/system/mail/javamail/config/javamail-config"
  xsi:schemaLocation="http://intra-mart.co.jp/system/mail/javamail/config/javamail-config ../schema/javamail-config.xsd ">

  <smtp>
    <smtp-server id="groupmail" host="192.168.120.43" port="25">
      <smtps enable="false" starttls="false"/>
      <auth enable="false">
        <user/>
        <password/>
      </auth>
      <x-mailer>intra-mart MailSender ver 8.0</x-mailer>
      <debug>>false</debug>
      <connection-timeout>-1</connection-timeout>
      <timeout>-1</timeout>
    </smtp-server>
  </smtp>

  <content-type>
    <file extension=".txt" content-type="text/plain"/>
    <file extension=".gif" content-type="image/gif"/>
    <file extension=".jpg" content-type="image/jpeg"/>
    <file extension=".png" content-type="image/png"/>
  </content-type>

  <listener>
    <listener-class>jp.co.intra_mart.foundation.mail.javamail.listener.impl.HalfKanaTransrateListener</listener-class>
    <listener-class>jp.co.ucm.im.groupmail.listeners.GroupMailSendContinueListener</listener-class>
  <!--
  <listener-class>jp.co.ucm.im.groupmail.listeners.GroupMailSendOnlyListener</listener-class>
  -->
  </listener>

  <encode>
    <charset>UTF-8</charset>
    <mime-encoding>B</mime-encoding>
    <content-transfer-encoding>7bit</content-transfer-encoding>
  </encode>

</javamail-config>
```

## WARのデプロイとテナント環境セットアップ

作成したWARファイルをアプリケーションサーバにデプロイし、テナント環境セットアップを行います。

### 注意

iWP で IM-社内便 をご利用されていて、データベースをそのまま複製して iAP へ移行されている場合、IM-社内便 のテーブルが既に存在しているためにテナント環境セットアップが失敗する可能性があります。あらかじめ *gmt\_* または *gmm\_* から始まるテーブルがないことを確認してください。

### コラム

データベースの移行を実施する際には iAG がテナント環境セットアップ直後の状態である必要がありますので、テナント環境セットアップ等の作業が完了したらアプリケーションサーバは停止しておくことを推奨します。

## iAG へのデータ登録

iAG のテナントデータベースとして利用するスキーマに対して、出力した「migration.sql」を実行してください。

**i** コラム

「migration.sql」にはクライアントのシステム変数の設定、及び commit文が含まれていません。

sqlplus や Oracle SQL Developer で実行する際、SQL中の & (アンパサンド) で始まる単語は変数として解釈され、また空白のみの行はSQL文終端として扱われる場合があります。これを無効化するには「migration.sql」の実行の前に以下を実行しておきます。

```
SET DEFINE OFF
SET SQLBLANKLINES ON
```

また自動コミットが無効の場合、「migration.sql」の実行後に必ずcommit文を実行してください。

**!** 注意

「migration.sql」にはメール本文の内容がそのまま含まれるため、メールの内容によっては以下のような文字列が発生することがあります。

- 行末が ; (セミコロン)、または ; (セミコロン) と一つ以上の空白で終わる。
- / (スラッシュ) のみの行。

上記のようなデータは sqlplus で実行してしまうといずれもSQL文の終端として認識されてしまうため、正常に登録が完了しないおそれがあります。この場合、Oracle SQL Developer のような GUI ツールのご利用を検討いただくか、migration.sql の内容を直接編集し問題ない形に修正の上実行してください。

**!** 注意

移行先のデータベースにデータ登録を行う際、sqlplus等の、JDBCを使用しない方法でデータ登録を行う場合は、UTF-8とAL32UTF8を厳密に区別してデータ登録を行う必要があるため、注意が必要です。下記にsqlplusを使用してデータ登録を行う場合の例を示します。(NLS\_LANG環境変数にAL32UTF8 (OS上のUTF-8と等価) を指定し、データベース上でUTF-8 (Oracleで使用される古いUTF-8) として取り扱われないようにします。)

```
$ export NLS_LANG=Japanese_Japan.AL32UTF8
$ sqlplus /nolog
SQL> SET DEFINE OFF
SQL> SET SQLBLANKLINES ON
SQL> conn username/password
SQL> @migration.sql
SQL> commit;
SQL> exit
$
```

## iAG へのStorageの移行

1. iAG にパブリックストレージのディレクトリを作成します。  
<%PUBLIC\_STORAGE\_PATH%>/groupmailディレクトリを作成します。
2. IM-社内便 ディレクトリを iAG にコピーします。  
下記の intra-mart WebPlatform のディレクトリを intra-mart Accel Platform へコピーします。  

```
<%STORAGE_PATH%>/groupmail/<%ログイングループID%>配下のtempを除く全ディレクトリ
⇒ <%PUBLIC_STORAGE_PATH%>/groupmail
```
3. アプリケーションサーバのプロセスを実行するユーザから読み書き可能な権限が付いていることを確認してください。

## ジョブネットの実行

1. テナント管理者で以下のジョブネットを登録します。  
移行専用のジョブネットとなるため、他の iAG のジョブネットとは異なり、手動でジョブネットを作成していただく必要があります。

ジョブネットカテゴリ	GroupMail
ジョブネットID	groupmail-jobnet-migration
ジョブネット名	移行用データサイズ更新
実行ジョブ	[GroupMail][データサイズ更新] [GroupMail][ユーザ使用量更新]

2. 登録した「移行用データサイズ更新」ジョブネットを実行します。
3. 「IM-ContentsSearch」を利用する場合は、「IM-ContentsSearch クローラ」の「差分クローリング」ジョブネットを実行します。

**i** コラム

問題なく完了した場合、ここで登録した「移行用データサイズ更新」ジョブネットは削除して問題ありません。

## 制限事項

---

移行にあたっての制限事項は [intra-mart Accel GroupMail リリースノート](#) に記載されています。  
バージョンアップ時には、必ず全ての制限事項を確認してください。